

本の ひろば

[月刊] キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2016年1月1日発行（毎月一回発行）第696号

ISSN 0286-7001

出会い・本・人

神学とは何か、信仰とは何か 窪寺俊之

本・批評と紹介

田澤雄作 著

メディアにむしばまれる子どもたち

中村亜子

大塚野百合 著

「きよしこの夜」ものがたり 小友 聡

C・スティッド 著／関川泰寛、田中従子 訳

古代キリスト教と哲学 土井健司

W・ブルグマン 著／吉村和雄 訳

詩編を祈る 郷家一二三

キリスト教史学会 編

戦時下のキリスト教 石浜みかる

大嶋重徳 著

若者と生きる教会 森島 豊

木村利人 著

戦争・平和・いのちを考える 深田未来生

石居基夫 編著、W.キップス、窪寺俊之、賀来周一、大柴譲治 著
スピリチュアルペインとそのケア

井上 創

ジョン・ホート 著／田中公一 訳

宇宙論と進化論とキリスト教 池内 了

ライオネル・チャモレー 著／日本聖公会文書保管委員会 編
英国人宣教師

ライオネル・チャモレー師の日記 1

諫山禎一郎

吉岡利夫 著／上田 勇 監修

塀の中のキリスト 川上直哉

大和昌平 著

牧師の読み解く般若心経 村上英智

本屋さんが選んだお勧めの本

近刊情報

書店案内



1 JANUARY
2016

N・T・ライトの主著、ついに邦訳開始

新約聖書と神の民 上巻

キリスト教の起源と神の問題1

12月14日

N・T・ライト著／山口希生訳



パウロと初期キリスト教史研究に新生面を切り開いてきた著者が、現在全6巻の壮大な構想で進めている「キリスト教の起源と神の問題」の第1巻。その前半にあたる本書は、聖書学方法論を徹底的に再検討した後、新約聖書のユダヤ教的前提を詳述し、原始キリスト教理解の導入をはかる。

◆A5判・本体6400円

近代の成立にとつての

12月10日

プロテスタントイイズムの意義

エルンスト・トレルチ著／深井智朗訳

トレルチ生誕150年

ルターと近代とを安易に直結させる当時のナショナルな解釈に抗し、近代科学や芸術文化、デモクラシー、資本主義等といかなる関係にあるかを冷静に論じ、その因果連関を解明した歴史的講演の新訳。

◆四六判・本体2600円

信じない人のためのイエス入門

宗教を越えて J・S・スポング著／富田正樹訳

著名な元聖公会主教が、聖書学の知見を踏まえて聖書を再読し、在来の有神論を徹底批判。そこから浮かび上がるイエスを通して、本当の神体験とは何かを考える。

好評 ◆A5判・本体3700円



新たな年を御言葉と共に始める

御言葉は

重版出来

わが足のともしび

蓮見和男著



日々、聖書を読み、御言葉に聴き、祈るための1日1ページの小説教と祈り。旧約聖書と新約聖書の全体に目配りしてテキストを選択。巻末には主題別・教理別の索引が付いている。

◆四六判・本体3500円

NHK連続テレビ小説「あさが来た」ヒロインのモデルの著書

人を恐れず天を仰いで

広岡浅子著

復刊「二週二信」



著者は企業経営に手腕をふるい女性実業家の先駆けとなった。女性の自立と教育にも関心を寄せ、日本女子大創設に尽力。還暦を過ぎて大阪教会で受洗。本書は自らの剛毅な信仰観を瑞々しい筆致で綴った著書。解説は影山礼子氏。

◆B6変・本体1700円



出会い・本・人

神学とは何か、信仰とは何か——窪寺俊之

金子みすゞの作品は、二〇一一・三・一一の東日本大震災後、多くの人の傷付いた心を癒し慰めた。傷付いた人の心に寄り添ってスピリチュアルな癒しを与えている。一九九五年の阪神淡路大地震では、詩「千の風になつて」が多くの人を慰めてくれた。ここにもスピリチュアルな癒しがあった。それはキリスト教的でもなく、仏教的でもない誰の魂にも触れるスピリチュアルな世界である。

愛する人を突然の災害で失ったり、思いがけない不幸に襲われた時、慰めになるのはスピリチュアルなものである。この世を離れた彼岸からくる慰めの言葉である。それも分かりやすい簡単な言葉である。魂が深く傷付き集中力、理解力、判断力を失ってしまった心には、自分を超えたものから来る言葉が「いのち」を癒してくる。

私が彼女の作品に出逢ったのは、自分が心を深く痛めていた時であった。その鋭い敏感や優しさをもつスピリチュアルな世界に癒された。例えば、作品「雪」は青い小鳥の死を詠った作品である。夕暮れから降り出した雪が死体を覆い隠した。人里離れた野原の出来事であったが、雪を被った家が弔いに参列した。次の日、雪はやみ、空は晴れ渡ったが、それは小鳥のたましいが神さまの国にゆく道を備えるためだと詠っている。

彼女の512編の作品にはスピリチュアルな感性が輝いていて驚嘆する。小さな出来事の中に神を見ている。作品「蜂と神さま」では次のように詠っている。

「蜂はお花のなかに、お花はお庭のなかに、お庭は土塀のなかに、土塀は町のなかに、町は日本のなかに、日本は世界のなかに、世界は神さまのなかに、そうして、そうして、神さまは、小ぢな蜂のなかに。」

彼女は特定の宗教的用語をほとんど使わない。にもかかわらず小さな「いのち」の中に居る神を見ている。神様のご計画のなかに私たちが居るだけではなく、神さまが私たちの中にいてくださると伝えてくれる。

惜しいことに、彼女は二六歳で自死した。その理由がいろいろ語られている。自死の理由には、苦悩からの逃避、自己犠牲、自己顕示などがある。彼女の場合、娘を守るための自己犠牲という人が多い。私は彼女が浄土真宗の熱心な母親に育てられた点に注目している。宗教は彼女にとって何だったのかと疑問をもつ。宗教の本質は、自死よりも如何に生きるかを語ることである。突然の不幸や悪の働く現実を宗教的視点から解き明かし、いのちを支えるものだと思う。複雑化する社会は価値観も世界観も多様化する。金子みすゞの作品と生涯は、私に誰にでも分かり希望を与える神学とは何か、苦難に負けずに生きるキリスト教信仰とは何かを考える機会を与えてくれた。

(くぼてら・としゆき 聖学院大学大学院 こども心理学科長)

ベテラン医師による警鐘と健康回復の手引き
田澤雄作著

メディアにむしばまれる子どもたち 小児科医からのメッセージ

本の表紙やさし絵には、その本が語りかけたメッセージが込められているはず。田澤雄氏による近刊『メディアにむしばまれる子どもたち』のタイトルに、内容の深刻さを思い浮かべる方も多いのではないだろうか。でも、にしまきかやさんの描く表紙やさし絵の子どもたちはなんと明るく楽しそうでしょう。メディア依存の子どもたちを暗いトンネルから脱け出させるには、戸外での伸びやかな遊びが一番！と読者に呼びかけているようです。

田澤氏は小児科医として、長い間たくさん子どもたちを診てこられました。近年になって数を増してきた、子どもの体に起きるさまざまな異変、たとえば頭痛、睡眠障害、慢性疲労、食欲不振などの症状の多くは、メディア漬けによつて起きると著者は言います。治療法はいとも簡単です。しばらくの間、家族の協力のもと、子どもたちをゲームやスマホから遠ざける生活を送らせるのです。すると笑顔が戻ったり、学校に行けるようになったりする子が沢山いるとのこと。

怖いのはそれらに依存し続ける子どもたちが、やがて大人に



中村 柊子

なりきれない人になるという指摘です。言葉の足らなさや命の軽視、コントロールのきかない感情、人間関係の希薄さなど、どれをとってもそれらは若者たちの惹き起こす事件の背景に共通することがらで、今、何とかせねばと誰しもが思っているはず。では、どこから手をつけたらよいのでしょうか。こんな問題が山積しているのに、メディアが及ぼす弊害は科学的な根拠が薄いからと問題視しない向きの人たちも、いまもって大勢います。著者は粘り強く分かりやすく、脳のはたらきと、メディアとの関係を示してくれます。そのまなざしは子どもたちに向ける温かさに満ちています。子ども時代を子どもらしく過ごさせてやりたいという思いは、親であれ保育者であれ誰しもの願いです。

ところが現実には、悪い方向に進むばかりです。ゲームのとりこになっている子どもは、もう乳幼児にまで及んでいます。これは私が目にした子どもの一例です。保育園の二歳児クラスを見学していたときのことです。担任の先生は絵本を読んでいた。子どもたちは絵本の絵を食い入るように見つめ、ひとこ

とも聞き漏らすまいと耳をそばだてています。ところが中に一人絵本を見ずに、うつむいて、膝のうえで両手を動かしている子がいました。気になって見ていたら、両手はゲームを動かしている手つきでした。もちろん園にゲーム機など置いていません。でも幼い子の頭の中には、ゲームの画像が映っているのでしょうか。絵本を読む先生の言葉に耳も貸さず、指を動かし続ける姿はとても奇異に見えました。後で担任から聞けば、家でお兄ちゃんとゲームをしているとか。

多くの保育者は、保育にテレビやパソコン、ましてやタブレット端末などを持ち込むことに反対です。子ども時代に経験しなければいけないことは、五感を働かせること、絵本を読んでもらうこと、身体を動かすことの気持ちよさを知ることが大切だと確信しているからです。

本書が問題の指摘や警鐘で終わってしまったとしたら、読みの手の迷いは増すばかりでしょう。では、どうしたらよいか。子

どもが育つ上でもっとも大切なことは何かを、やさしく説いてくれます。まずは目を合わせて、ゆっくりと子どもにも向き合うこと、生まれてきてよかったと思えるような自己肯定感を持たせてやることだ。少しも難しいことではないのです。

私は長年保育の仕事に携わってきましたが、今まで同様これから先も子どもたちのために、もっとも大切なことは昔も今も変わらないと、背中を押された喜びでいっぱいです。

ごっこ遊びや、ともだちや動植物とのかわりなど、子どもを存分遊ばせましょう。子育てにつまづきを覚える父母ばかりでなく、保育者や小・中学校などの教師、教育に次々と機器を持ち込もうとする教育関係者など、子どもを取り巻くすべての人に読んで欲しいと思います。

(なかむら・まさこ)元保育園園長
(四六判・二〇二頁・本体一三〇〇円+税・教文館)

井上洋治著作選集3

シリーズ全5巻完結!!

キリストを運んだ男 パウロの生涯

最終回 配本

山根道公 編・解題 若松英輔 解説
異邦人伝道に苦闘したパウロの生涯
と思想を、自身の経験に重ねて考察。
新たに遠藤周作氏との対談を収録。

A5判 上製・244頁・2700円

シリーズ発売中 各巻2,700円—

- 1 日本とイエスの顔
- 2 余白の旅—思索のあと
- 4 わが師イエスの生涯
- 5 遺稿集「南無アツパ」の祈り

人物がわかると
聖書が100倍おもしろい!

聖書人物 おもしろ図鑑

大島力 監修 金斗絃 イラスト
古賀博/真壁 麻/吉岡康子 編



四六判 並製・112頁・1,620円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyout@bp.uccj.or.jp (価格8%税込)

http://bp-uccj.jp

神への賛美と深い祈りの結晶
大塚野百合著

「きよしこの夜」ものがたり
クリスマスの名曲にやどる光



小友 聡

大塚野百合先生の『きよしこの夜』ものがたり』が刊行されました。クリスマスシーズンを迎える今、グッドタイミングです。プレゼント用(?)に克蘭ツをあしらった表紙が素敵で、思わず手に取って読んでみたくなる本です。

著者大塚野百合先生は、長く恵泉女学院大学で教鞭を執った著名な英文学者。しかし、私たちには英文学者というよりも讃美歌の名解説者として、あるいはまたヘンリー・ナウエンの紹介者としておなじみです。大塚先生の著作はこの一〇年でも一〇冊を超えるでしょう。その先生の最新の著作が本書。クリスマスの賛美歌にまつわるエピソードが満載され、読者の知的興奮を誘う実に面白い本です。評者は賛美歌についてまったくの素人ですが、大塚先生のご著書を愛読してきた一人として本書を紹介いたします。

本書は八つの章から成る賛美歌エッセイです。「もろびとこぞりて」(一章)、「きよしこの夜」(二章)、「鳥の歌」とパブロ・カザルス(三章)、「ああベツレヘムよ」(四章)、「あめにはさかえ」(五章)、「くしき星よ、やみの夜に」(六章)、「朝日

は昇りて」「羊は眠れり」(七章)、ヘンデルの「メサイア」(八章)。

いくつか紹介しましょう。「もろびとこぞりて」や「きよしこの夜」などおなじみのクリスマス賛美歌には、それぞれ誕生にまつわるドラマチックなエピソードがあります。それは皆さんにぜひ読んでいただくとして、評者が心惹かれたのは「鳥の歌」とパブロ・カザルス。大塚先生はこの「鳥の歌」というスベイン・カタロニア地方に由来するクリスマス曲を印象深く紹介しています。新聖歌94番にも載っているこの賛美歌は哀調を帯びた、静かな美しい曲です。クリスマスの喜びとは対極にある哀しい調べは、幼子イエスの誕生が十字架につけられるための誕生であったことを告げます。皆さんも、バッハのクリスマスオラトリオ第五曲のコラールが受難の讃美歌136番「血しおしたたる」のメロディーで歌われることをご存じでしょう。クリスマスという人類にとって最も喜ばしい出来事が、「鳥の歌」では十字架の苦しみと結びつけられて奏でられるのです。カタロニア出身のチェロの巨匠、パブロ・カザルスが一九六一

年にホワイトハウスで演奏した「鳥の歌」を評者もCDで聴きました。世界が破滅の危機にあった時代にケネディ大統領の前でカザルスがこの故郷の賛美歌を演奏し、祈りを込めて平和を訴えたことに心が揺さぶられました。これぞクリスマス賛美する最も真実な賛美歌、としみじみ思いました。

クリスマス賛美歌に因んでヘンデルのメサイアも紹介されています。ヘンデルが作曲したこのメサイアの台本は、脳出血で倒れた彼を励まし、立ち直りを願って書かれたものでした。体の機能を失い絶望していたヘンデルがその台本を読み、感動で涙しながら渾身の力で書き上げたオラトリオ「メサイア」。日本ではクリスマスに演奏されますが、ヨーロッパではイースターに演奏されます。聴衆に深い感動を与え、救い主キリストの御業を讃えるこの曲は、作曲者ヘンデル自身がキリストによって癒され見事に立ち直った証しの作品だったのです。もう一つ、チャールズ・ウェスレー作詞の「あめにはさかえ」

もクリスマス賛美歌の名曲です。彼はメソジスト運動を興したジョン・ウェスレーの弟。その兄弟の母親スザンナのご本は書と同時期に大塚先生が出版した『スザンナ・ウェスレーものがたり』(教文館)に詳述されています。こちらもどうぞお読みください。

本書はクリスマス賛美歌の紹介だけに留まらず、日本語訳では伝わらない原語の息吹をも読者に伝えてくれます。これは賛美歌を慕う教会外の人たちにも呼びかけ、教会に招いてくれる本です。賛美歌は礼拝ではしばしば説教以上に「福音のロゴス」として会衆に語り掛ける力を持っています。クリスマスの賛美歌は福音を伝えるメッセージであることを評者は教わりました。牧師や神学生にもぜひ読んでいただきたい良書です。

(おとも・さとし)東京神学大学教授、日本基督教団中村町教会牧師
(四六判・二三三頁・本体三三〇円+税・教文館)

神学ダイジェスト119号

急速な変化を遂げる現代社会。その中において、多様な価値観に直面するキリスト者。本誌は海外の神学動向を紹介しながら、現代人のかかえる信仰への真摯な問いに光をあてる。

2015年12月発行
A5判128頁
定価630円

特集 平和と宗教

巻頭言 今、問われる平和
正義の美りとしての平和
宗教による暴力の正当化について
宗教と力をめぐる政治神学
シャロームと聖書
済州島カンジェオン村平和会議より
再興二百年の新しいイエズス会
回顧「ラウダート・シ」への手引き
他、小特集「奉献生活」独身・老い・病い」

松浦悟郎 J・モルトマン
M・ヴォルフ
R・V・ジンナー
G・ヴァーニ
姜 禹一
K・シヤッツ
A・スバダロ

上智大学神学会
神学ダイジェスト編集委員会
東京都練馬区上石神井4-32-11
〒177-0044 Tel & Fax (03) 3594-4349
E-mail shing-dt@netjoy.ne.jp

読み応えのある古代キリスト教思想の概説書！
C・ステイッド著

関川泰寛、田中従子訳

古代キリスト教と哲学



土井健司

クリストファー・ステイッドの『古代キリスト教と哲学』が出版された。まずは訳者の関川泰寛氏と田中従子氏の労を大いにねぎらいたい。大きな本ではないが、訳を作るのはなかなかむずかしい書だと思ふ。

ステイッドは、分析哲学全盛時代のケンブリッジに哲学を学んだ経歴をもつ教父研究者である。その一端は神の「在る」をめぐる一五五頁以下の議論に垣間見られる。分析哲学において徹底した訓練を受けたステイッドの目に教父の思想はどのように映るのか。有体に言うと、哲学の名に値しないのである。自律した理性、厳密な論理、概念の精確さ、このような観点からすると教父の使う概念や議論は多義的で曖昧であつて、およそ哲学的ではないという。そのためステイッドはキツパリと教父の思想を「哲学」と呼ぶことを拒否する。「キリスト教哲学」と呼ばれるものの大体は、結局、哲学からの助けを借りて組織化されたキリスト教神学なのである（一〇七頁）。これがステイッドの結論となる。この点評者は「哲学」をステイッドのように捉えるなら頷くところもあるが、歴史的にヘレニズム期以

降の「哲学」の捉え方は現代とは異なり、たとえば人間の生と深く関わるものであつたこと、また現代においても「神」の思索について哲学的に評価する余地はあると思ふ。とはいへ、だからと言ってステイッドは決して教父を蔑ろにしようとしているのではない。彼らを神学者として評価するのである。哲学の概念、論理を使って神学思想をどのように展開しようとしたのか、これが本書の明らかにしようとするところである。

三部から成る本書は、第一部でギリシア哲学が概観され（第一章から第七章）、第二部では「キリスト教神学における哲学」のタイトルの下に古代キリスト教思想史が扱われる（第八章から第十七章）。そして最後第三部においてステイッドが唯一哲学者と認めるアウグスティヌスの思想が論じられる（第十八章から第十九章）。

第二部は、ロゴス論や三位一体論など古典的な神論を中心に議論が進み、およそキリスト教思想史の流れに沿つてトピックが選ばれている。哲学的な主題となるのは神論だからである

う。教父の思想と哲学を扱う第八章に続き、ギリシアとヘブライの神理解、神の存在を扱う存在論証、そして神の一性と不変性、以上がそれぞれ独立した章として論じられる。第一二章ではナジアンゾスのグレゴリオスの言葉を手掛かりに、神が霊、火、光などと形容される、様々な議論が整理される。さらにロゴス論、本質の問題、三一論、受肉論、キリスト論と進む。

訳文の流麗さも伴つて、ステイッドの議論は明快、明瞭である。たとえばヒュポスタシスの議論では、二世紀や三世紀等の古代におけるその用法が見事に整理されていて頷かされる。ウーシアやヒュポスタシスというと、ふつうはアリストテレスや古ストア派などは参照するが、それ以降の哲学文献はとも複雑で新プラトン派を除くとほとんど手をださうと思わない。しかしステイッドは実に多くの古代の文献を渉猟し、詳細に用例を研究していて、当時の可能な意味をすべて列挙し、その意味を確定しようとする（二一六頁以下）。具体的に言うなら、

ヒュポスタシスの意味は大きく三つに分かれるという。(1)底に溜まる物、尿。(2)下に隠されているもの、待ち伏せ。(3)支えとして下に立つもの、建築の土台。さらにこの第三の意味が多様に展開すると述べ、挙げられるのは、a 抵抗、b 資産、c 約束、d 事業、e 希望、f 設計図、g 星の配置図、以上となる。これらに歴史的視点を加えて三一論におけるヒュポスタシスの意味を解明していくのである。このような哲学史に通暁した学者の手による説明は見事であり、私自身、納得するところが多かった。なお、訳文は読みやすく優れたものではあるが、ときに疑問に思う訳語も見られた。たとえば一四〇頁の *regula fidei* は「信仰の法則」であろうか。

古代キリスト教思想を探索する者の一人として、哲学史の知識に富んだ著者による、読み応えのある古代キリスト教思想の概説書の出版を祝したい。(どい・けんじ) 関西学院大学神学部教員 (A5判・三三四頁・本体三八〇〇円+税・教文館)



アウグスブルク 信仰告白

メランヒトン著 ● ルター研究所訳
● B6判並製 ● 定価：1000円+税

日本福音ルーテル教会
宗教改革500年記念事業
推奨図書

宗教改革期には、ルター派、改革派、急進派は次々に信仰告白文書を明らかにしたが、本書はそうした信仰告白文書の最初のものであつて、ルター派の信仰表明の根本的地位を占め、ルター派教会のアイデンティティーを規定している。解説では、本書成立の背景と現代社会での意義について述べる。

ISBN978-4-86376-046-2

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

詩編を通して、祈りの強靭さを回復する
W・ブルッゲマン著
吉村和雄訳

詩編を祈る



郷家 一一三

私は、ブルッゲマンの『旧約聖書神学用語辞典 響き合う信仰』（日本キリスト教団出版局）を入手し、「苦しみ」「苦難」等の項目から教えられてきました。特に詩編を引用する著者の詩篇理解に関心がありました。吉村和雄先生が本書を訳され、時機を得た助けと喜びました。「詩編を祈る」ことは教会と個人の祈りに新しい命を与え改革を促します。情熱的な対話を回復し、嘆き祈る勇気を呼び起こします。「十六世紀の宗教改革者たちが徹底して詩編と向き合った」理由が分かってくるのです。

本書の主題は、ユダヤ人の祈りを共に祈ることにより祈りの強靭さを回復することです。教会はユダヤ的な詩篇を排除し、生々しい祈りを避けてきました。その結果、祈りがリアリティーを失い、ありきたりの言葉で覆われました。新旧約聖書の双方において、同じ神との関わりを与えられているはずなのに、詩編を祈ることを避けてきた理由を探り、共に祈ることで強靭さを回復する道を語っていきます。

第一部の「我々の経験を詩編に触れさせる」では、第88篇が取り上げられます。逆境の経験をしながら、それを適切な言葉のメタファーはある動きを告げています。最初は穴に落ち込んだ苦悩の叫び、次は報復を求める叫び、最後は感謝の表明です。穴から翼への移動を洗礼にも見出し、イエスと共に新しい命へと甦る、と語ります。

第四部は、「ユダヤ人の領域」にいるキリスト者」です。冒頭は圧巻です。詩篇がキリスト者の霊性の中心であり、イエスの受難物語に教多く引用されながら、キリスト教会による詩篇の使用には「ぎこちなさ」があるのは、詩篇が徹頭徹尾ユダヤ的なものだからである、と指摘します。この鋭い指摘には一言もありません。確かにわたしたちは詩篇をえり好みしています。ある強烈さを異質に感じています。詩篇は選んで説教します。聖書研究はしても嘆きや復讐や訴えに満ちた詩篇の言葉で祈りません。この極端な言葉を異質に感じってしまうからです。しかし詩篇と正面から向き合わないことで、「わたしたち自身の霊性が矮小化され些末なものになる」と著者は警告します。そ

で言い表すことのできない人々の思いを、この嘆きの詩と結びつけるなら、自分の経験が詩篇の言葉によってすでに語られていることを発見します。そして「詩編を祈る」ことで、逆境の混沌状態の中で言葉を得て、神に向かって語りだすのです。

第二部は「言語の解放」ですが、ここでの鍵は、詩篇の言葉は「新しいものを選び起こす言葉」であるという点です。嘆きと涙を語る五つの詩篇を引用し、この表現は現実を叙述し実証する言葉ではなく、新しいリアリティーを創り出す言葉であり、解放の言葉だと論証します。どうしてもわたしたちは、誇張表現を和らげようとし、防御的になりやすいのですが、著者は大胆にこう言います。「詩編は……死にゆく者の声になるのです。その理由は、ひとつにはこの世が死の場所であって過ぎ去りつつあるからであり、さらには、神が新しい命をくださるのは、死の苦しみの中においてのみだからです」。病床を訪問して祈る言葉が詩篇にあるとの確信を私は得ました。

第三部は「その場にふさわしい言語」です。ここでは穴（墓）と安全な翼という二つの場所が語られます。「明らかにここで詩篇の祈りの強靭さを体得する道が示されます。「ユダヤ人のために」「ユダヤ人と共に」「ユダヤ人のように」祈ることです。具体的に、率直に、闘争的に、希望をもって、情熱的に、わたしたちが「明日のユダヤ人」として祈るようにと招いていくのです。

第五部は「復讐 人によるものと神によるもの」です。詩篇で難しい主題は、敵に対する復讐を祈る言葉をどう理解するかです。ブルッゲマンの展開は見事です。人の復讐の現実味から語りだし、神の主権による復讐と神の憐れみが語られます。ホセア書11章を引用し、「混じりけのない憐れみは、神が復讐の痛みをご自分のペルソナの中に担うことよってのみ、可能なものなのです。」と結びます。最後に、復讐したがる生き物としてのわたしたちが復讐を通り抜ける道が見事に示されるのです。（こや・ひふみ 日本ホーリネス教団坂戸キリスト教会牧師）

（四六判・一八四頁・本体二〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）



プロテスタントからカトリックへ橋をかける説教

マルタ・リエンナール 著 時任美方子 訳

ストラスブールの街から

世界的に著名なルター派神学者が語る、その思いとは！ 提示した説教はキリスト者信仰を生きかしてきたメッセージの力と喜びの幾分かを通じるようにとの目的を持つ。我らの内にある確信と希望を証言するのみだ。神は過去のものではなく、今日も明日も生きておられるというこを。（本文より）

●新書判・三三三頁・本体1100円

好評既刊の本

川上直哉 著（東北ヘルプ事務局長）現場から、世界から
被ばく地フクシマに立って
吉田隆・評 茫漠たる津波による爪痕の地に立った時、私たちは語るべき言葉を失った。「被ばく地フクシマに立って」現場の呻吟に寄り添いつつ、語るべき言葉を探し続ける一人の神学者のレポート。ヨベル新書、本体1000円

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp 税別表示
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
*自費出版の専門出版社*資料・星

よみがえった反動的パワーに対峙するための基礎固め
キリスト教史学会編

戦時下のキリスト教 宗教団体をめぐって



石浜みかる

「宗教団税法」は、戦時下の一九三九年四月に成立し、日本の全宗教団体を横並びに串刺しにした戦時統制法です。宗教関係者にとって、法律は論じることの少ない分野ですが、憲法九条が揺らぐ今この時に、あの宗教団税法に焦点を絞った書籍が出たことは、まことに時宜を得ていると思います。本書のなかで研究者の方たちは、キリスト教界の代表的な五つの団体それぞれに、当時何が起きていたのかを（長らく語られなかった内部の状況もふくめて）、渾身の力を込めて語っておられます。

敗戦後、宗教団税法は廃止されました。しかし立法や法の改定はつねに社会動向と密接につながっています。戦後七〇年を経て、集団的自衛権の行使が可能になったいま、「信教の自由」と「政教分離」をふまえた現行の「宗教法人法」も、国策協力へ向かわせるための改変の下準備が粛々と進行しているやもしれません。

三九年に成立した宗教団税法の草案が、文部省宗教局の高級官僚によって練られたのは、その四年前の一九三五年です。超国粋主義議員たちの突き上げにより、国会が「天皇陛下は憲法

のもとで統治されるのではない。日本は現人神天皇陛下が、憲法を超越して治められる神国なり。皇国なり」と、古代のような「憲法の解釈変更」を決議したからです（三月二四日衆議院、天皇機関説排撃による国体明徴決議案可決）。

そして翌三六年の二・二六事件らしい、軍部が政治を掻き乱していき、日中戦争が泥沼化すると、国民のあいだに不安と厭戦気分がひろがり、国内秩序が崩れていきました。復古的日本精神を鼓舞する官製の「国民精神総動員運動」が始められますが、戦死者の遺骨はつぎつぎにはるか遠い中国大陸から戻りつづけます。お葬式を執り行う宗教界の絶対的服従が必須でした。超国粋主義者であった平沼騏一郎首相は、三九年二月、ついに宗教団税法案を貴族院特別委員会に提出し、「どんな宗教も、我が国体観念に融合しなければなりません。国家としては保護もします。横道に走るのを防止するために監督もいたします」と恫喝します。宗教団税法は可決されました。

（第一条）本法において宗教団体とは神道教派、仏教宗派及び基督教其の他の宗教の教団（以下単に教派、宗派と称す）並びに寺院及び教会を謂う

キリスト教界は苦しい立場でした。カトリック教会も、正教会も、聖公会も、プロテスタント諸教派も、一国家内の法律を越えた国際的つながりがある構造をしています。本書のなかでムチに振り回されながら関係を絶つていく詳細が語られます。一番すさまじいムチを受けたのは、一部が日本基督教団にも統合された、ホーリネス関係者でした。法律が一つ成立すれば、関連法が「改正」されます（安保関連諸法の改正のように）。内務省の特別高等警察は、「改正」治安維持法を適用して一三〇名以上の牧師を粛々と検挙しました。七一名を起訴。実刑一四名、死者七名――。

キリスト者たちは国家と信仰のはざまでもう生きるのか。現代の宗教者は法律に敏感でなければなりません。

（いしはま・みかる＝作家）

「神道教派」（教派神道）とはおもに江戸末期から明治にかけて生まれた創唱宗教で、どれも神道的な信仰集団でした。長らく一三団体公認されてきており、そのまま二三派として認可されます（「神社神道」は信仰集団ではなく、国家の祭祀であり、別格で内務省神社局の管轄でした）。

（四六判・二〇〇頁・本体三三〇円＋税・教文館）



大崎節郎著作集

第一巻 教義学論文集1 (全7巻)

大崎節郎
Setsuro Osaki



透徹した教義学的営為によって
なされた業績を集成!

第一巻は渾身の書き下ろし
「使徒信条講解（教義学要綱）」

その詳細な講解は、教義の根本
となる重要事項の詳述でもある。

菊判・上製・函入・内容案内進呈
定価 [本体 6,000 + 税] 円
ISBN978-4-86325-082-6



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

教会は若者どどのように向き合えばよいのか？
大嶋重徳著

若者と生きる教会 伝道・教会教育・信仰継承



森島 豊

本書の表紙に著者の素敵な写真が載っている。著者は、評者が学生時代に出会った時とまったく変わらぬ。年を感じさせない。言葉を変えると、学生時代からおじさんだった(笑)。著者には、こういう冗談を言える親しみが昔からあった。その関係を支える背景には「若者のそばにいて、彼らを励ます存在」(二八頁)であり続けようとした著者の姿勢がある。その理由は次の言葉にある。若者たちが「神さまの前に踏みとどまることを支えたい」(四三頁)。

本書は、KGG(キリスト者学生会)の主事として、学生伝道の最前線に身を置く著者の現場報告とその取り組みである。

課題は「信仰を若い世代にどのように伝えていくのか、それも教会としてどのように継承していくのか」(八頁)である。しかもその姿勢が聖書に基づき、教会の教理を重んじているので、安心して読むことが出来る。

著者に一貫していることは、「若者に届く言葉を求めて」(三一頁)いることである。様々な取り組みはすべてこの一点と結びついている。そこが本書の魅力である。そこで心がけている

語ってくれない」(二二頁)。しかし著者は、若者特有かもしれない恋愛や性的な悩みを馬鹿にしないのである。驚くかもしれないが、小学生にも「必ず性のことを話すこと」にして(一八頁)いる。この問題に一緒に悩み、聖書の信仰を通して「若いときの葛藤を、信仰を持って乗り越えて生きていくことができるように」(四三頁)関わり続けているのである。いろいろな意見があると思うが、著者ならば相談できる若者は多いだろう。若者の悩みを軽んじないからである。

また、崩壊した家庭で育った若者たちの不安にも寄り添っている。辛い家庭環境で育った若者の悩みを代弁し、「彼らを励ます存在」(二八頁)の必要性を説いている。そこに教会の姿を見ている。著者が出会った若者との話は心に響く(四一―四二頁)。青年伝道の秘訣は、「何を行うか」という方法論よりも、『だれと出会うか』ということが大切なこと(三九頁)という言葉には説得力がある。

ことが「彼らの言葉を聞く」(三三頁)ことである。現場に身を置いているので、若者をとらえる言葉にはリアリティがあり、洞察力が鋭く、教えられるところが多い。たとえば、現代の若者の特徴として「フィーリング(感覚)」(二〇頁)が挙げられている。判断の基準が正しさではなく、フィーリングに合うかどうか、「心に訴えるかどうかに敏感に反応」(一九頁)しているのである。また、「聖書を読まない」(二二頁)傾向を指摘している。画面に映し出される画像で聖書を見ているので、自分で聖書を読む習慣がなく、「聖書体験」が失われている(二二頁)ことを危惧する。したがって、教会が取り組むべき課題は、「聖書をそのまま若者に届く言葉で語る」(二三頁)ことなのである。

本書を読んでいて気づかされることの一つは、若者に届けようとする著者の言葉がストレートなことである。本当は聞きたければ、尋ねられない若者特有の問題から逃避せずに向き合っている。その一つが性的な話である。教会は「自分の性欲あるいは性的な衝動について、これをどう取り扱えばよいのか」となのである。

他にも、取り組みの中から生まれた様々なアイデアの紹介、学生へのアンケート結果も参考になる。教会学校の取り組みを「やめないでいただきたい」(二五頁)という理由については是非読んでいただきたい。

本書を読んでいると、われわれの存在が問われる。若者への伝道は忍耐を強いられるが、次の言葉が心に響く。「どれだけ時間をかけたからといって、その若者が真つすぐに主を仰ぎ見るか」といふと、そんなことはありません。裏切られるような言葉と共に去っていくケースも多々あります。……けれども、それでいいのです。彼らが彼らの言葉で神さまとの出会いを表現していくことを、私たちは喜ぶのです」(五八頁)。



マタイによる福音書

13章から16章の説教

林 勵三
Reizo Hayashi



神の国のたとえ 信仰告白への道程

要点をとらえた小説教
デモンストラーションとして最適

四六判
定価 [本体 1,700 + 税] 円
ISBN 978-4-86325-091-8



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢 3 丁目 4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

キリスト者の生命を考える足場として
木村利人著

戦争・平和・いのちを考える しあわせなら態度に示そうよ！



深田未来生

著者の木村利人さんは、あの有名な歌「しあわせなら手をたたこう」の作詞者として知られている。この歌が日本社会で広く歌われるようになって、ほぼ半世紀が過ぎていき、その間、日本は当然のことながら、世界に激しい変化が起こるのを見てきた。その多くは必ずしも好ましいものではなく、平和がかき乱され、人間の尊厳が損なわれ、正義の確立が揺らぐような出来事や傾向であり、悲しい現実でもある。

戦後七十年の今、日本は岐路に立っていると考える。戦争体験世代に属する私は、その同じ時代を共有する著者が特別な思いを抱きながら日々過ごしていることを、本書を読みながら見て取ったのであった。

激動の歴史を歩みながら

私が若き日の木村さんに出会ってから半世紀になる。私たちは少年時代、それぞれに戦争を体験した。それは飢えや、疎開生活における孤独感、敗戦直後の大人たちの態度の急変に対する不信感であり、どれも苦痛を伴う体験であった。私たちが願

木村さんは、生命倫理へのアプローチにおいて、生命を「いのち」と記す。この本のタイトルも、ひらがなで「いのち」となっている。きっとこれは、木村さんが生命の課題を一定の枠組みにはめ込まず、広く神が創造された、すべての「いのち」とする視座からのチャレンジとして受け止め、そのあるべき可能性の追求を試みているからだろう。あえて「神の創造」としたのは、木村さんの学問的基盤のみならず、人間としての思想そのものは、明らかにキリスト教信仰にあることはこの一冊だけをとも明瞭であるからだ。

私たちのいのちの総体を描きながら

木村さんにとってすべては連携、関連しているのである。それは学問においてもそうである。単なる学際的アプローチでは不十分であり、各分野がお互いを欠くことのできない共働的パートナーとして総合的に（超学際的に）課題と取り組むことに

い、主張する平和は、「腹の底から」の叫びのようなものなのである。木村さんもこの視点から、その主張を展開する。

戦争に対する嫌悪感や感性に根ざしている部分が多い。しかし感性だけでは真の平和は確立しないことを私たちは知っている。木村さんの場合は、少年時代から青年時代へと日本に限らず、海外の貧困や社会不安の現場に積極的に身を置きながら早稲田大学法学部での勉学を終えた。そして、海外のいくつもの教育機関で研究を続け、教鞭をとった体験が彼独特の広い視野を可能にしたと言える。彼の学問は常に人間が生きている現場、その多様性、文化や時代の特色や精神に根ざし、深い意味で人間の幸せの追求につながる形をとっている。

いわゆる「生命倫理」と訳されてきた、バイオエシックスの分野における学問的追究には、木村さんの人間として、そしてまた学識研究者として生きる姿勢が顕著に表われているのである。

生命を考える足場

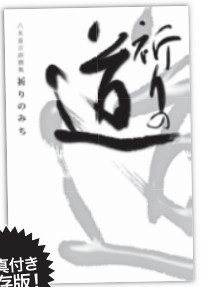
よって、課題の解明が成り立つとする。したがって人間の肉体の問題は、この社会のあらゆる側面に関連していくし、真の平和はこの世のあらゆる課題を自分のものとして協力体制で取り組むことよって、実現への道のりを歩むことになるのである。それは真実な人間共同体という壮大な理想を掲げることになるのだが。

この本は話し合いへの導入に適した資料ともなる。私は、木村さんが自分の身を開くようにして体験と思いをつづるこの一冊が、同じようにお互いがオープンに自分をさらけ出して語り合える小グループで用いられることを切に願っている。参加者が心の奥底の思いを態度で表わすような語り合いの中から、私たちが執望する平和への道が見え始めることを信じるからである。

（ふかだ・みきお 同志社大学名誉教授）
（A5判・112頁・本体1000円＋税・キリスト新聞社）

キリスト新聞社の本
Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.

大切なあなたに贈る
珠玉の詩集！



写真付き
保存版！

八木重吉の原点である諸作品と風景写真を掲載した詩集 八木重吉詩集

祈りのみち

八木重吉 ● 作
森重ツル子 ● 編

結核のため二十九歳でこの世を去った詩人八木重吉が書き残した二千余りの詩。重吉と彼の詩を愛した妻とみ子は、これらの作品を世に出すべく、大切に保管していた。二人の子とも桃子と陽二を重吉と同じ病で相次いで失うことになるが、とみ子は歌人吉野秀雄と再婚し、彼の子ともたちとともに重吉の詩を世に送り出した。

■ A5判 84頁 1200円

キリスト新聞社
〒162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1
TEL 03-5579-2432
FAX 03-5579-2433 (価格に税別)
E-Mail support@kirishin.com
URL http://www.kirishin.com

生きる土台を再構築していくことへの手助け
 石居基夫編著、ワアルデマール・キッペス、
 窪寺俊之、賀来周一、大柴譲治著

スピリチュアルペインとそのケア

昨今、死が変わってきた。大家族、地域共同体の中で受け止められていた死が、病院のベッドで一人迎える「個人的」なものになってきている。「故郷」を失い、先祖との絆も絶たれ、死によって自分が全ての世界から切り離されてしまうような痛みを多くの人が体感している。また、古来よりこの国では、豊かな自然の恩恵を通して世界との「つながり」を感じてきたが、先の震災でこの自然が牙を剥いたことによって、この「つながり」も揺らがされてきている。神や人、大いなる自然との関係の中で自らの存在の意味・価値を確認することが難しくなっている今、それによって生じる痛みをどのように癒していくのかということを実践的に検討していく必要がある。

本書には、二〇一四年七月二六日に開催された、日本ルーテル神学校付属のデールパストラルセンター（以下、DPC）創立記念の創立記念シンポジウムで行われた講演が収録されている。DPCは、ルーテル学院大学付属機関の「人間成長とカウニング研究所」が30年を迎えた際に、その働きを継承発展させるために発足した。今日の牧会の課題を研究し、教会の宣



井上 創

教に寄与することを目的としている。このDPC創立記念講演会のテーマが「スピリチュアルペインとそのケア」であり、本書のタイトルとなっている。著者たちは、それぞれにカウンセリングや牧会の現場で多くの経験を重ねてこられた方々である。講演で語られている経験談や研究分析の結果は多岐に亘り、深く考察されているため、すぐにでも現場で活用することができらるだろう。

本書では「スピリチュアル」「ペイン」「ケア」などの用語が何度も使われている。それぞれの著者がこれらの用語を定義してから持論を展開しているが、各々の間に「そもそもスピリチュアルペイン、ケアとは何なのか」という共通の認識があるわけではない。そのため、読み進めていくと、一つ一つの講義は別の主題を扱っているかのようにも感じられる。これは、この国ではスピリチュアルケアの研究がまだ充分ではないことを表しているのではないだろうか。著者の一人であるキッペス氏によれば、「スピリチュアルケアにノウハウはない」（五一頁）のであるが、少しでも系統立てた研究が深まっていくことで、現

場での豊かな実践につながっていくことが期待される。この国に死生学の文献はあるが、死に際して生まれるスピリチュアルな痛みのケアについての研究は希少である。牧会者必携の一冊と言えるだろう。

本書において「スピリット」は霊や魂と訳されている。しかし、著者たちの中には、スピリットを魂と区別している方や、霊を「関係性の中に働くもの」と考えている方もいて、一様ではない。それぞれの著者に共通しているのは、死に際して私たちの中にあるスピリチュアルなものが危機的状況に置かれ、痛みを感じているということだ。危機（Crisis）は「分ける」が原義であり、人間がバラバラになり機能を失うことがこの危機的状況の本質である。この回復には、自分を支える基盤、信じられるもの、頼るものが必要となる。スピリチュアルケアとはつまり、生きる土台を再構築していくことへの手助けなのだと言える。

痛みのもととは、「満たされないニーズ」にある。スピリチュアルなニーズは、細かく分類することができる。ケアに携わる者は、この痛みに敏感である必要がある、それぞれの痛みを区別ができるようになることが重要である。スピリチュアルケアは、常日頃より霊的なものを意識している人にだけけずかにかできるものだと考えられている。そのため、ドイツなどではチーム医療の現場において、身体的ケア、心理的（精神的）ケア、社会的ケアなどのそれぞれの専門家と共に、霊や魂のケアを臨床床パストラル・ケアワーカーが担当する。死を考える医療の現場において、今まさに牧会者が必要とされているのだ。そのための具体的なテクニックを本書から学ぶことができるだろう。

（いのうえ・はじめ 日本基督教団霊南坂教会牧師）
 （A5判・二二頁・本体一六〇〇円＋税・キリスト新聞社）

木版画家とカトリック司祭の
 神秘的合作

木版集 白い鹿

ヨゼフ・ドミヤン 版画
 押田成人 詩



ハンガリー出身版画家の作品と、カトリック司祭の墨書詩による木版画集。私達の魂の旅路を立ち現す。A4判 上製・74頁・5400円



あなたらしく生きる

山内英子

聖路加国際病院プレストセンター長、
 乳腺外科部長

「自分らしさ」をもって人のために何ができるのか。外科医・妻・母・信仰者として、生と死に寄り添ってきた著者が紡ぐ、生き方エッセイ。B6判 並製・104頁・1080円

日本キリスト教団出版局
 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 ☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
 E-mail eigyoubp@bp.uccj.or.jp 《価格8%税込》
<http://bp-uccj.jp>

科学の限界における神学との対話
ジョン・ホート著
田中公一訳



池内了

宇宙論と進化論とキリスト教 科学と聖書が協奏する新たな啓示

私は、さしずめ、この本で「科学的自然主義者」と呼ばれている人間の一人です。自然が示すさまざまな現象は物質の運動や質的变化を調べることによって理解できると考えている唯物論者で、自然に関わる諸現象を神に頼らないで説明したいと願っています。その意味では、本書の第七章で神学と科学の関係进行分类した五類型（同一視、対立視、差異化、交流、確証）のうち「差異化」の立場にあるというのが最も相応しいかもしれません。科学を他の世界観と鋭く区別しており、従って神学と科学は根本的に異質な問いに向かっていると考えているからです。

しかし、ここで慌てて付け加えておかねばなりません。私は科学によって全ての事柄を説明することができるとも、科学が万能だとも思っているわけではありません。科学は多くの謎を解き、人々を偏見や先入観に基づく恐怖から解放し、宇宙や生命の長い歴史における変遷を明らかにしてきたのは事実ですが、そこには重大な「留保」とも言うべき前提が含まれていることを心得ているからです。それは、本書の考察において深く追求されていないと思われる科学の側面で、その点を語って

たいと思います。

科学は自然一般が対象となるのですが、科学者は自然が引き起こす現象は一見バラバラで脈絡なく生じているように見えるけれど、そこには何らかの規則性があり、それは必ず説明でき、そうすることによって原因と結果の関係を明らかにできる、という大前提を置いています。これを自然の「一様性の原理」と言い、自然の全ての事象は人間の知恵によって理解できると考えているのです。傲慢なように見えますが、そう考えるからこそ科学の研究が続けられると言えるでしょう。

しかし、ここで立ち止まって考えてみれば、ここで「原理」（前提とか仮定とも呼ぶ）と言うように、誰にとっても正しいと思っている言明であっても、明示的に証明出来ることではないのです。だから、それは「信念」に過ぎないのかもしれないし、「信仰」と呼ぶべきかもしれません。そして、このような数多くの「原理」の上に科学的言説（法則）が成立しているということなのです。例えば宇宙論では、ビッグバン宇宙が現在の定説になっていますが、そこには「宇宙原理（宇宙はどこでも同じ姿をしているとの前提）」が基礎にあるのです。

なぜ原理が成り立つのかについては証明のしようがありません。本書によく引用されている「オッカムの剃刀」も、「最少の仮定で説明できる理論が最善である」という原理と言えるもので、やはりなぜそうなかの説明できず、「そうである」とすれば巧く行く」という結果を受け入れているに過ぎないのです。

それ以外にも、物理定数と呼ばれる現象を記述する基本量（例えば光の速さ）や物理法則そのものの形（万有引力が距離の二乗に反比例するという関係式）が、なぜそのような値で、なぜそのように表現できるのか、これも明示的にわかっているわけではありません。ただ、そうであれば自然現象が過不足なく記述（説明）できるということで科学者は満足している（せざるを得ない）のです。あるいは、科学者にも美意識があり、得られた方程式が美しくないと信用されないので。この美意識も証明できません。

ここに科学者は後ろめたさを持っています。それを問い詰めて

宗教を開く

著 ● 中村博武 / 古荘匠義 / 本多真 / 岡崎秀麿

キリスト教と仏教の信仰の在り方、宗教の現代の意義などをテーマに双方の研究者が論述。仏教、キリスト教という教義に基づく宗教概念をいったん解体するとどうなるかという議論から興味深い論考を展開する。

心を神に

著 ● 加藤博道

「具体的な礼拝の経験が、信仰と教会を形成する」。そのような視点から著者は教会の礼拝の持つ歴史的な背景、豊かさを示すとともに、それらが今を生きている教会の中で、どのように生き生きとダイナミックな姿を表すことができるかを叙述し、未来への希望を語る。研修会等に最適な本。

宇宙論と進化論とキリスト教

科学と聖書が協奏する新たな啓示
著 ● ジョン・ホート 訳 ● 田中公一

お役所仕事に万歳四唱
プレバンの青春
著 ● フイン、セーボー 訳 ● 野沢みどり

〒170-6045
東京都豊島区東池袋3-1-1
サンシャイン60 45階
☎03(5979)2252 FAX 03(5979)2253

られる答えられない、あるいは創造者に頼らざるを得ないからです。そのようなこともあるので、神を信じていないはずの科学者が「神はサイコロ遊びをしない」（アインシュタインの言葉）というように神を引き合いに出すのです。いかなる科学的自然主義者であろうと、科学が成立している基盤まで問い詰める、必ずこの問題に当面します。

私は、このような科学の限界とも言わなければならない側面においてこそ、神学と科学が二人三脚で歩むことができ、お互いの対話が可能になるのではないかと考えています。例えば、宇宙論や進化論において採用されている「原理」は何で、そこに神学が活躍できる要素は何か、それを考えるのも「未来への無限性を孕む神学」の重要な役割ではないでしょうか。

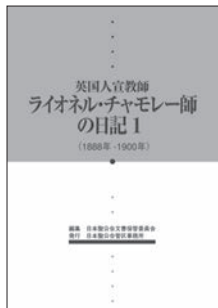
（いけうち・さとし 総合研究大学院大学名誉教授）
（A5判・三〇二頁・本体三三〇〇円＋税・聖公会出版）

聖公会出版

—— 新 刊 案 内 ——

英国人宣教師
ライオネル・チャモレー師の日記 I

一八八八年—一九〇〇年



諫山禎一郎

これは、今から十年ほど前から、日本聖公会の管区文書保管委員だった名取氏たち三人（名取多嘉雄・大江真道・垣内茂）が、翻訳を担当され、塩田純子さんが校正を、その検討会議を五年ほど毎月続けられ、この程出版されたものである。名取氏は英文学者で元立教女学院短期大学学長、大江氏は京都教区退職司祭で、英国にも牧会経験のある人である。著者のチャモレー師のフルネームは、Lionel Benners Cholmondeley で、ただチャモレーという名前は、読むのが難しく、日本では、当初チャームンドレー、チャムリとも読まれていたといわれている。彼は、一八五八年（安政五）にイギリスのグロスターのアドルストロップにあるマリア・マグダレン教会牧師館で生まれた。父ヘンリーは貴族出身で、その教会の牧師であり、母マリアも貴族出身で、兄フランシスもインド伝道に尽力した牧師であった。チャモレー家は、まさに英国の名門だった。彼は、一八八二年（明治一五）、オックスフォード大学オリエンタル・カレッジを卒業し、一八八四年から一八八七年まで、トルーロのケ

ンワインで副牧師を務めた。一八八六年（明治一九）に日本の宣教監督（今の主教のこと）になったピカステス師に勧められ、イギリス聖公会の伝道団体 S.P.G.（福音宣布協会と訳す、The Society for the Propagation of the Gospel の略）の会員となり、一八八七年（明治二十）に来日した。来日後は、日本語を習得し、宣教師として励んだ。傍ら監督付チャブレンも務め、在日イギリス人の牧会に当たった。また、イギリス公使館付チャブレンとなり、半蔵門の公使館にも勤務する。ほかに芝罘町（今の港区芝公園）の聖アンデレ教会と隣接の聖安得烈（アンデレと読む）神学校、聖安得烈英語夜学会で教鞭を取った。神学校には、ピカステス師の指令で授業はすべて英語であったが、学生の中には、英語力の弱い者もいて、夜学会はそれを補った。また、東京専門学校（早稲田大学の前身）でも英語と英文学を教えた。さらに自ら創設した牛込区（今の新宿区）岩戸町にあった岩戸英和倶楽部でも英語の指導をした。このようにチャモレー師は、英語教育を日本宣教の手段とした。

聖バルナバ教会（現存している）として再生させた。また、スラム街救済事業として芝区在の新網町講義所（今の浜松町駅近くにあった）、愛隣小学校の活動も支えた。東京以外の宣教活動は、相州（今の神奈川県）の小野、中津、秦野や千葉の下福田、大多喜まで行っている。特に一八九五年（明治二八）の秦野の聖路加教会の開堂に尽力した。さらに小笠原伝道に力を入れ、一八九四年（明治二七）から十五年間に十二回、休暇の帰英期間を除き毎年一度、約一月間滞在した。そして、一九二二年（大正一一）故国イギリスに帰った。帰国後は、小教会の牧師を務め、一九四五年（昭和二〇）に逝去した。八十七歳だった。

の多いこと、その氏名をきちんと書き取り、記録していたのであるまいか。この人名を名取氏たちは、注記として説明しているが、さらに巻末に人名索引も付けている。これは、本書に十回以上出てくる人名録で、その数は日本人と外人を合わせて百七十人にも及ぶ。明治時代の日本宣教の実際を、読むことができる貴重な文献である。また、巻頭にチャモレー師の写真や、生家の聖マリア・マグダレン教会（垣内司祭が訪問した記念）、昔の牛込聖バルナバ教会、小笠原聖ジョージ教会の写真などがある。

本書は、来日後の一八八八年（明治二二）一月一日から始まり、一九〇〇年（明治三三）十二月三十一日までであり、都合十三年間の日記である。その後の日記は、今後発行予定。毎日の日記は、簡潔に書かれている。それにしても、彼が会った人

（いざやま・ていいちろう）日本聖公会文書保管委員
（A5判、五八八頁、本体三〇〇円＋税・聖公会出版）



キリスト教書総目録 2016年版

バツハとマザー・テレサ 巻頭エッセイ 徳善義和氏 片柳弘史氏

内容

総記・年鑑・辞事典 図説・年表／全集（著作集）叢書・講座／聖書／聖書学／神学／宗教学 思想・倫理／伝記／ライタシオン／信仰・入門書 人生論 説教集／文学小説 評論・エッセイ 詩劇／音楽 美術 建築 教育保育 心理 社会福祉／児童 絵本／讃美歌 式文／DVD CD カセット レデオ／キリスト教関連雑誌・新聞 書名索引／著者索引／掲載出版社名簿

■ A5判 一般頒価1冊286円＋税 送料250円
■ お近くの書店様でお求めください。

キリスト教書総目録刊行会

事務局 〒162-8710 東京都新宿区
東五軒町6-24 トーハンビル内
TEL.03-3266-9521

今ある教会への叱責と激励を本書から感受！ 新しい伝道と宣教の姿

吉岡利夫著
上田 勇監修

塀の中のキリスト



川上直哉

命がけの問いかけを受けて、命がけで答える。そうした経験を、どれだけ私たちがはしていることでしょうか。

「王よ、あなたの杖を持つ教会の上田牧師から今日、このように心温まる返信を」と、牧師の答えに感激する人がいることを、どれだけ私たちがは、本気で想像しているでしょうか。

本書は、そうした本気の遣り取りの成果です。無期懲役の受刑者と牧師との交流の物語。確かに本書は、今生きて働く神様の業を物語る証しとなっています。そこに登場するのは、今生きてある吉岡さんという「受刑者」と、上田さんという「牧師」。お一人とも、目に入れても痛くない程の愛情を注ぐ子や孫がいる。人生を共にと誓った伴侶がいた、生身の人間です。

受刑者の信教の自由を保障するために、刑務所に呼ばれる宗教者がいます。「教誨師」と呼ばれます。私は、キリスト教教誨師として、宮城刑務所で、毎月一度、希望する受刑者にお会いしています。世間の流れに合わせて、仮釈放が望めない日々を受刑者は過ごします。従って「ほぼ終身刑」の状態で、キリスト教を希望して集まる方々に、私は毎月お会いしている。その皆さんの、話を聞く、真剣な目。その眼の奥にある思いを、

が本書になって結実したのです。本書は、期せずして、今ある教会への叱責と激励そのものとなっています。

本書は三部構成になっています。第一部は「独房篇」。吉岡さんの一人語りが深く響きます。第二部は「雑居房篇」。伝道する吉岡さんの様子が活き活きと報告されます。そして第三部は「塀を越えて」。妻と孫を次々と亡くして行く上田牧師を、吉岡受刑者が、支える場面です。

第一部と第二部は、宣教と伝道の現代的展開を体現するものとなっています。先ごろ、世界教会協議会は総会を開き「変化する世界の伝道と宣教のために」と題した声明を採択し、カトリック・福音派・ペンテコステ派の諸教会と共に「伝道も宣教も、ただひたすら神の業である。教会はその業に参与する。その際、悔悛が賞まされる。改宗主義は許されない」と宣言しました。東北の被災地では「宣教」を問い直し「宣証」を目指す新しい伝道の試みが展開しています。同じ流れが、本書第二部

本書は、はつきりと伝えてくれました。本書に登場する受刑者・吉岡さんは、「未来は無い」と言い切ります。その現実を前にして、牧師に、果たして何が語れるのか。その時、牧師の能力・知識は無意味になる。そして初めて、福音がはつきりと輝く。そうした出来事が、本書に証しされています。

福音がはつきりと輝く時、福音の輝きを遮っていた様々なものが見えてきます。その「様々なもの」は、善意と神学によって裏付けられて、熱心に真剣に勧められる。でも、それが遮蔽物になる。吉岡さんは、最初「H」という牧師に神様の愛を知らされ、感激し、信仰を告白し、訓練を受けました。でも、その教導には愛がなかった。そう気づいたとき、吉岡さんは塀の中で挫折した。挫折した吉岡さんには、教会の嘘がたくさん見えるようになりました。「既成の教会は信徒の数を増やすことに固執し、かつ教会の財力と組織の拡大にとらわれて、主の十字架の福音を私物化しているのではないだろうか」と……。

その吉岡さんが、しかし「聖書の上辺の知識にはもう懲り懲りだ、と言って落ちる穴を恐れては前進ができない」と思い定めて、祈りを込めて「古里の教会」に手紙を出した。それまでにはつきりと読み取れます。

第三部は、本書の白眉です。フクシマの現場で、私は、親しい方の御息女「りうなちゃん」が五歳を目前に白血病で亡くなる、その過程を共にしました。同じように、吉岡さんは上田さんの八歳の孫娘「みちるさん」が難病で急速する過程に同伴します。ずっと吉岡さんを支えた妻「まゆみさん」の急逝の直後に。その悲しみを支える吉岡さんの言葉が、今、ここに残されたことを幸いに思います。本書に示された言葉は、全て、個人名を伴った「心のままを表白」(内村鑑三)したものです。本書副題は「エン・クリストオの者への道」。キリストを纏う者の道は、自分の心のままの言葉がそのまま証しとなる道である。こうした証しが交響するなら、そこに新しい伝道と宣教の姿があるだろう。そのように励まされる本でした。

(かわかみ・なおや・東北ヘルプ事務局長、日本基督教団仙台北三番丁教会担任教師) (新書判・二九六頁・二〇〇〇円+税・ヨベル)

塀の中のキリスト

エン・クリストオの者への道

上田勇監修

吉岡利夫著

ヨベル新書031

魂の叫びと更生への道 山中正雄師 (日本キリスト教伝道会 精神科医)

●新書判・174頁・1,000円+税

好評既刊の本

齋藤孝志著 ヨベル新書008

まことの礼拝への招き

レビ記に徹して聴く

西満師・推薦 一字一句が大切に講解されており、一見難解で敬遠されがちなレビ記の祭儀に示されている福音の奥義が見事に分かりやすく解き明かされています。

●新書判・174頁・1,000円+税

齋藤孝志著 ヨベル新書006

クリスチャン生活の土台

東京聖書学院教授引退講演

「人格の形成と教会の形成」つき

尾花晃師・推薦 本書の示す、「クリスチャン生活の五原則」は、その生活において、絶えず実行されなければならない要点を余すところなく書いてある。霊的・知的成長に多大な示唆。

●新書判・168頁・1,000円+税

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
*自費出版の専門出版社*資料・星

とても分かり易い仏教の入門書であり、優れたキリスト教入門書

大和昌平著書

牧師の読み解く般若心経



村上英智

私は真言宗智山派（総本山は京都にある智積院）に属する寺院の住職です。真言宗の経典はたいへん多く根本経典の「大日経」「金剛頂経」、常用（毎日読む）経典の「理趣経」、節をつけて読む「声明（しょうみやう）」、梵字（インドの字）で書かれた「真言」などです。しかし、般若心経はご多分にもれず、本宗派でも最も読まれる経典の一つであります。四国八十八カ所の遍路でも本堂と大師堂の前では、必ずと言っていいほど般若心経を読む声が聞こえます。大和昌平先生がおっしゃるように日本人が最も良く唱えるお経であろうと思います。

さて、たいへん失礼な話ですが、大和昌平先生は全く初めて知る方で、当然のことながらその著作に接したことはありませんでした。この度、先生の『牧師の読み解く般若心経』を手にしたとき、難しい文章なのか、と不安を感じたのは確かです。実際に読み進むと、平易な文章で難解な用語もわかりやすく実例を挙げながら説明がされているので、理解しやすいいものでした。また文章には丁寧さと優しさが十分に感じられ、読者の理

解が進むよう配慮されているのがわかります。文章は良く著者の人柄をあらわすことが多いのですが、この本を通して大和先生の誠意あるお人柄と優しい口調が聞こえてくるようで、たいへん親しみやすい本だと感じました。私は、住職を拝命してまだ五年、いわゆる駆け出しの住職です。また、僧侶としての研鑽も不十分で、恐ろしいことに真言宗の教義について不勉強なことも多い、誠に至らない僧です。大和先生のようなキリスト教・仏教に対して深い見識をお持ちの方の著書を評するなど、恐れ多いことではありますが、私の感じたことについて失礼ながら書きたいと思います。

あります。大和先生は「経はゴータマの悟り」「律は共同生活の規則」「論は注釈書」など初めて仏教書に接する人が読んで、分かり易く説明されています。先生の仏教に対する深い理解がうかがえます。また六波羅蜜の実践を通して悟りの「智慧」の完成に至るのが仏教であり、それ故に仏教は修行に始まる宗教である、という言葉には、思わず首を縦に振りました。この本は仏教の起源から般若心経の本質に迫ろうとするものであるということがよくわかります。

第二は同じ第一章から第三章についてですが、優れたキリスト教入門書であります。キリスト教の根本が「神」「罪」「救い」というのはたいへん分かり易い言葉です。また、聖書についても旧約聖書、新約聖書について丁寧に説明がされています。仏教徒としてたいへん新鮮に感じたのは、仏典は開かれた聖典、聖書は閉じられた聖典、という言葉です。最初に触れたように真言宗にはたくさん経典があります。その他法要のやり方を説明したものは、仏具の配置を指示したものなど元々経典に書かれていたものです。何の不思議もなく扱っていましたが、びっくりしました。私がこの本で最も感動したのは八五頁です。

第三に本書は上質な般若心経の解説書です。第一章から第三章までの仏教の基礎知識を述べているのでたいへん分かり易い内容となっています。また、十二処十八界や五蘊、十二支縁起などは図解され、分かり易い解説がなされ、理解が格段に進むと思います。十二支縁起の分類は、思わず感じ入りました。我々真言宗での般若心経の解説は、もっぱら宗祖弘法大師著作の『般若心経秘鍵』によります。その中で弘法大師は、心経の心は「心呪」の意味だとし、密教の経典として位置づけています。当然のことながら、最初から難しい密教用語が並ぶことになり

「神の愛」という言葉は世界史や倫理学の教科書には頻出しませんが、かつて高校の教員であった私は何の理解もなく授業で扱ってきました。人間の堕落が神に背を向け自分が神であると錯覚することで始まった。神はそれを救おうとキリストを人間界に

送られた。真の神を憎悪する人間は、十字架にかけた。私はこの文章を読み「神の愛」にほんのわずか触れた気持ちがありました。私はキリスト教の結婚式に参加したとき、聖書の言葉聞いたことがありましたが、この本に引用された言葉には新鮮さを感じました。「言葉は力」ということを十分学びました。なお、この部分に関し仏教経典の「懺悔（さんげ）の文」で「我昔より作る所の諸々の悪行（あくごう）は、皆無始の貪瞋癡（とんじんち）に由る身語意依り生ずる所なり（私はこれまで様々な過ちを犯してきました。それは計り知れない過去からの積み重ねてきた自らの『むさぼり』と『いかり』と『おろかさ』によるものであります（の意）』と書いています。キリスト教で言うところの「罪」の概念と近いと感じました。

この本はいくつかの特徴がある、と感じました。第一は、第一章から第三章まで、とても分かり易い仏教の入門書であることです。仏陀や玄奘三蔵などについて、歴史や仏教説話に基づき解説がなされています。仏教の基本用語についても同様なことがいえます。たとえば三蔵などは、歴史書や物語にしばしば登場する歴史用語ですが意外に知られてない面が

業も受けました。今回書評を書くにあたり、約四十年ぶりにそのときのノートを読み返しましたがちんぷんかんぷんでした。また、総本山智積院より配布された教化資料の中に般若心経の解説がありましたので読んでみました。同じようになかなか理解できませんでした。しかし、大和先生の著書を読んだあと、これらを読んでみるとノートの内容や教化資料とも、良く理解できました。先生の深い学識に驚いた次第です。また私の不勉強をたいへん恥じいった次第です。

先生は、仏教の「空」とキリスト教の「空」は全く違う、とおっしゃっております。仏教の「空」はまさに悟りの境地です。昨年、開創千二百年の四国八十八箇所霊場を檀家の人たちと遍路しました。本当は歩き遍路がいいのですが、時間と費用の関係でバスで廻りました。しかし、交通事情が格段に良くなった現代でも難所は存在します。四国八十八ヶ所二十四番最御崎寺は室戸岬突端。その急な崖の下にみわる洞があります。弘法大師はそこで行を行い満願の日に明けの明星が口に飛び込み、悟りを開いた、と言われていきます。そこに寄った際こんな崖を毎日降りて登ったのか、と驚きました。洞窟の中から外を見たとき、目に入ったのは青い空と青い海でした。弘法大師空海はその様子を見て『空海』と名乗ったそうです。空海も天を見ていたとすれば、イエス・キリストの天上界と繋がっているかもしれません。

残念ながら、我々仏教とキリスト教はその教義上相当に違っています。しかし宗教は生きとし生けるものを幸せにする責務があることでは、同じであると思います。大和先生の限らない愛情を感じるときそれを一層自覚するものです。このような本に出会えた縁を大事にしたいと思います。最後に経文の最後にお唱えする普回向をもつて終わりにしたいと思います。「願わくは此の功德を以て普く一切に及ぼし、我らと衆生と皆共に仏道を成ぜんことを。」

(むらかみ・ひできと) 眞言宗智恵山派 医士山安楽寺住職
(新書判・三〇四頁・本体一〇〇〇円+税・ヨベル)

ヨベル新書のご案内



続々登場! (名著の復刻も企画中、ご意見募集!)

- 003 渡辺 聡 東京バプテスト教会のダイナミズム 1
日本唯一のメガ・インターナショナル・チャーチが成長し続ける理由(わけ) ¥1,000
- 004 山本美紀 メソディストの音楽
福音派讃美歌の源流と私たちの讃美 ¥900
- 006 齋藤孝志 [決定版] クリスチャン生活の土台
東京聖書学院教授引退講演「人格形成と教会の形成」つき ¥1,000
- 007 山下萬里 死と生 教会生活と礼拝 ¥1,400
- 008 齋藤孝志 [決定版] まことの礼拝への招き
レビ記に徹して聴く ¥1,000
- 010 渡辺 聡 東京バプテスト教会のダイナミズム 2
渋谷のホームレスがクリスチャンになる理由 ¥1,000
- 012 池田勇人 あかし文章道への招待 ¥1,000
- 013 大和昌平 追憶と名言によるキリスト教入門 ¥900
- 014 ネヴィル・タン 金本恵美子訳 7172
「鉄人」と呼ばれた受刑者が神様と出会う物語 ¥1,000
- 015 齋藤孝志 キリストの体である教会に仕える
エフェソ書に徹して聴く ¥1,000
- 017 齋藤孝志 道・真理・命 1
ヨハネによる福音書に徹して聴く(1~6章) ¥1,000
- 019 寺林隆一 あなたのためのイエス・キリストの質問 66 ¥1,000
- 021 齋藤孝志 道・真理・命 2
ヨハネによる福音書に徹して聴く(7~12章) ¥1,000
- 022 宗藤尚三 核時代における人間の責任
ヒロシマとアウシュビッツを心に刻むために ¥1,000
- 023 井上彰三 ペットも天国へ行けるの? ¥900
- 025 マイケル・オー 和解を通して ¥400
- 026 齋藤孝志 道・真理・命 3
ヨハネによる福音書に徹して聴く(13~21章) ¥1,000
- 027 山口勝政 キリスト教とはなにか?
ヨハネ書簡に徹して聴く ¥1,000
- 028 渡辺 聡 医者や薬がなくてもうつ引きもりから生還できる理由
東京バプテスト教会のダイナミズム3 ¥1,000

- 029 中澤秀一 グローブから介護へ
元巨人軍選手からの転身 ¥1,000
- 030 川上直哉 被ばく地フクシマに立って
現場から、世界から ¥1,000
- 031 吉岡利夫/上田勇 [監修] 扉の中のキリスト
エン・クリストオの者への道 ¥1,000
- 032 門叶国泰 説教聴聞録
ローマの信徒への手紙 ¥1,000
- 033 大和昌平 牧師の読み解く般若心経 ¥1,100
- 034 マルク・リエンナール 時任美万子訳
プロテスタントからカトリックへ
橋をかける説教 ストラスプールの街から ¥1,100
- 035 藤巻 充 ハイブリッド・リーディング
聖書の説教
悩める方たちへの聖書の語りかけ ¥1,000
- 036 齋藤孝志 信仰とはなにか? (仮題)
ヘブライ人への手紙に徹して聴く 予価¥1,000



渡辺善太著作選 全13冊+別巻1 ヨベル新書・¥1,800

- 009 ① 偽善者を出す処
偽善者は教会の必然的現象
- 018 ② 現実教会の福音的認識
- 011 ③ 聖書論——聖書正典論 1/ I
- 016 ④ 聖書論——聖書正典論 2/ I
- 024 ⑪ 聖書の説教とは?
- 020 ⑫ 説教集 わかって、わからないキリスト教

※自費出版の専門出版社※ 呈/「本を出版したい方へ」

株式会社ヨベル YOBEL Inc. 資料請求は info@yobel.co.jp または下記へ
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1 TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858

本屋さんを選んだ お勧めの本

横浜キリスト教書店 高橋友彦

『八木重吉詩撰集 祈りのみち』

森重ルツ子編



1,200円+税
キリスト新聞社

昭和の初めに若干29歳で天に召された詩人八木重吉。その素朴で繊細な詩風ゆえ——彼の死後ではありますが——多くの読者に親しまれ、とりわけその詩が謳いあげるキリスト教信仰は、多くの日本人クリスチャンに励めと励ましを与え続けてきました。

重吉の詩集は今でも何点かは出版されていますが、いずれも書籍としては地味な印象のものです。この度刊行されたこの撰集は、丁寧な装丁と美しいレイアウトに仕上げられ、重吉を知らない若い世代のクリスチャンにも（もちろん求道者や一般のノンクリスチャンにも）重吉の詩を紹介する格好の書籍となっています。

見開きの重吉と妻とみ子と幼い長子桃子の家族写真は、重吉の詩に慣れ親しんだ読者には、「ほほえましい」と言うより「胸を締め付けられるような」感慨を与えてくれるでしょう。冒頭に詩「序」と「一歩踏み出すのさえ容易なわざではない」が配置されたことに編者の森重ルツ子氏の「今この撰集を出版すること」の心意気とメッセージが感じられます。改めて重吉の詩を味わってみたいという方にも心からお勧めしたい一冊です。

横浜キリスト教書店

〒231-0063 横浜市中区花崎町3-16
TEL: 045-241-3820
FAX: 045-241-5881
E-Mail: sksch@nva.biglobe.ne.jp
URL: <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~yokohama-cbs/index.html>

徳島キリスト教書店 原田洋子

『礼拝の祈り』

鈴木宗巨著



1,400円+税
教文館

クリスチャンにとって、礼拝そして祈りはとても大切なことです。私たちは、ともすると偶像崇拜的な祈願の祈りが多くなりがちですが、賛美の祈りの大切さ、そのためにはどういう祈りが相応しいかを例文を挙げて紹介して下さっています。

人それぞれ思いや信仰歴の違いがあると思いますが、先生方、役員の方々、信徒の皆様にとって必携となる書物と

して自信を持ってお勧めいたします。

徳島キリスト教書店

〒770-0052 徳島市中島田町3-57-1
TEL: 088-633-6335 (FAX 共用)
E-Mail: tokushoten@shft.ocn.ne.jp
URL: <http://www6.ocn.ne.jp/>

大和昌平著 (東京基督教大学教授)

牧師の読み解く般若心経

ヨベル新書033



とても分かり易い仏教の入門書であり、優れたキリスト教入門書。村上英智師（真言宗智山派）本書は、第一にとても分かり易い仏教の入門書であり、第二は優れたキリスト教入門書である。第三に上質な般若心経の解説書。宗教は生きとし生けるものを幸せにする責務があることは同じである。●三〇四頁・一、二〇〇円

好評既刊の本

大和昌平著 ヨベル新書008

追憶と名言による キリスト教入門

仏陀、親鸞、孔子らの名言を追慕し、キリスト教信仰で読み解いた希有な入門書であり、著者の幼き日の歩みをキリスト教との出会いを重ね合わせた信仰的自伝ともいえる。

●新書判・152頁・900円

山口勝政著

閉塞感からの脱却

日本宣教神学

宇田進師・推薦 現代の宣教課題に関する注目すべきガイドブック！ 聖書が告げるキリストの福音は、「真空の状態」の中で宣べ伝えられるのではない。現実には置かれている時間・空間の直中に生きる人々に届けられるものである。●A5判・1,800円

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp 税別表示

〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858

*自費出版の専門出版社*資料・星

■日本キリスト教団出版局

キリスト教資料集

富田正樹著

キリスト教とは何であり、キリスト者とはどんな人物であるのか。聖書の内容や歴史の紹介にとどまらず、具体的な人物の生涯や言葉、キリスト教がもたらした文化・芸術、社会活動といった現代社会とのつながりを、図解を交えながら解説。キリスト教入門テキストとしても最適。

B5判・64頁・本体1000円

現代聖書注解 サムエル記上

W・ブルツゲマン著／中村信博訳

政治的要因、英雄の台頭、神の多様な働きにより、古代イスラエルが部族連合から中央集権国家へと急激に変容した時代。その移行する過程を描く「サムエル記」を文芸学的に考察・議論。テキストが表現する現実の興行きと深み、また超越的な神の働きを読み解く。

A5判・346頁・本体6400円

神学は語る パウロの教会はどう理解されたか

リチャードS・アスコナー著／村山盛葦訳

キリスト教会は真空状態から発生したわけではない。同時代の人々は、教会に既存のモデルを当てはめ、その機能を理解しようとした。本書は、この基礎モデル（シナゴーグ、哲学学派、古代密儀宗教、任意団体）に関して新約学者が積み上げてきた議論を整理し、概観する。

A5判・178頁・本体2400円

INFORMATION

近刊情報

■新教出版社

使徒行伝 下巻（現代新約注解全書）

荒井 献著

邦人の手になる学界最高水準の行伝注解がいよいよ完結。下巻は18章23節から最後まで。また巻末に補論として「使徒行伝概説」および「最後のパウロ」を付す。

A5判・500頁・予価9000円

■教文館

新渡戸稲造と歩んだ道

佐藤全弘著

世界平和の実現のために生涯尽力した国際人・新渡戸稲造。その精神を現代人に分かりやすく語りかけるメッセージ集。人間の魅力に迫るエピソードも満載。

四六判・368頁・本体2000円

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jb-shop.com	sasaki@jb-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/	zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・1771F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区稲3-2 様ヶ丘駅前ビル	043-238-1224	043-247-3072		keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	http://members3.com.home.ne.jp/taishindo/	taishindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
キリスト教書店ハンナ	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3269-4490	03-3269-4491		kristokyoushoten@ybb.ne.jp	00150-9-595509
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://www7.biglobe.ne.jp/~yldnrcs:ds/inev.html	biblehouse@bible.or.jp	00250-4-2512
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881		sksch@mva.biglobe.ne.jp	00560-8-51419
清光書店	951-8114	新潟市営所通 一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612		info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://homepages3.nifty.com/seibunsta/	nagoya-seibunsta@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834		kjordan@mbx.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曽根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店	591-8044	堺市北区中長尾町2-1-18	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00960-9-47426
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸中央区三宮町3-9-18三鷹ビル2F	078-331-7569	078-331-9833			01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413		sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用	http://kcbook.net/	kcbookcenter@ybb.ne.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484			01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			017304-45044
沖繩キリスト教書店	901-2131	浦添市牧港1-60-6	098-877-7283	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

新教出版社

福音と世界

2016年1月号

特集 聖書とエコロジ

寄稿者 藤原佐和子、郷義孝、和田喜彦、

荒川朋子、吉岡光人

韓国神学界の新たな潮流「オン神学」 洛雲海

書評「レスピアン・アイデンティティス」 遠藤まめた

好評連載 レヴィナスの時間論（内田樹）、南島キ

リスト教史入門（二色哲）、Christian Icon（八

木美穂子）、こぼれの履歴書（佐藤優）、詩篇

の思想と信仰（月本昭男）、他

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

翼をもつ言葉

ウイリアム・ウイリモン著／宇野元訳

説教をめぐる
バルトとの対話



北米を代表する実践神学者が、説教者バルトと正面から取り組み、時にはバルトを批判しながら徹底的に対話した大著。説教者に勇氣と示唆を与える言葉の数々。
460頁・本体5500円

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1

TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

編集室から

二年続けて『アート聖書カレンダー』（日本聖書協会）を使用した。たとえ僅かな時間であっても、一年間ほとんど毎日見るカレンダーは、それなりに気をつけて選ぶ。

二〇一五年五〜六月は『箱舟に乗る動物たち』カスパー・メンベルジャー・兄／画（アートバイブルII 旧約46頁より）の絵画が、二カ月分の日付とともに紹介されていた。最初の一カ月目は何事もなくスルー。六月になって若干の違和感を覚えたつも二週間が過ぎる。次頁の七月になるまでに見定めなければいけないと思つてさらに一週間が経ち、問題の場所をじっくり鑑賞したのは、最終週に突入してからだつた。

ノアの箱舟の絵。まもなく訪れる大洪水に備えて、急ぎ箱舟の乗り込もうとするノア一家と動物たちのようすを描いている。しかし、画面左上のいる馬のような動物は絶対に怪しい。頭に角が生えているように見える。ユニコーン？ なぜここに？ 気がつくくと調べてみたくなり、インターネットや図書館で探し

だが、画家の情報を見つけないことはできなかった。

そのかわりスラヴ民話では、ユニコーンが大洪水以前に存在した動物として、語り継がれていることを知ることができた。コミユニケーションを大切にしないユニコーンは、日頃から他の動物たちと良い関係でなかったようだ。ノアから箱舟に乗るよう促されても、「泳ぐ」と強情を張つて断つたため溺れ死んで伝説となった。話の趣旨がすり替わっているような気もする

が、人付き合いが下手な私にとつては身につまされる教訓。あらためて絵を観ると、箱舟に急ぎ乗り込もうと大わらわのノア一家と動物たちと、その光景を少し離れたところから静かに眺める異形の生き物がある。心の中で、おかしな感情移入が芽生え始めているのを感じる。画家はスラヴ民話を絵に取り入れたのだろうか。注意深く観ると角の生え際は、手前の動物と重なり描かれていない。これも計算の上なのか。ともあれ、与えられる新しい年に感謝して希望を託そうと思つた。（吉崎）

が、人付き合いが下手な私にとつては身につまされる教訓。あらためて絵を観ると、箱舟に急ぎ乗り込もうと大わらわのノア一家と動物たちと、その光景を少し離れたところから静かに眺める異形の生き物がある。心の中で、おかしな感情移入が芽生え始めているのを感じる。画家はスラヴ民話を絵に取り入れたのだろうか。注意深く観ると角の生え際は、手前の動物と重なり描かれていない。これも計算の上なのか。ともあれ、与えられる新しい年に感謝して希望を託そうと思つた。（吉崎）

オールカラーのビジュアル資料集、キリスト教入門書として最適

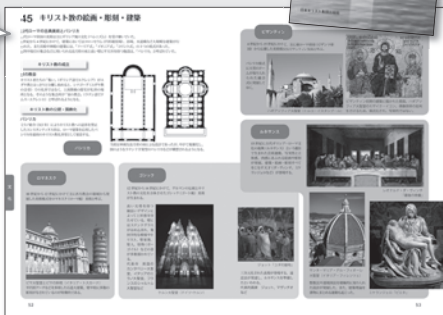
キリスト教資料集

富田正樹

オールカラーで
わかりやすい構成

聖書の内容や歴史の紹介に加え、
具体的な人物の生涯や言葉、キリ
スト教がもたらした文化・芸術、
社会活動といった現代社会とのつ
ながり、図解を交えて解説する。

◆B5判 並製・64頁・1,080円



現代聖書注解 全44巻

サムエル記 上

第43回
配本

W. ブルッゲマン 中村信博 訳



イスラエルが国家へと変容
する過程を描く「サムエル
記」。そのテキストが表現す
る現実の興行きと深み、超
越的な神の働きを読み解く。

◆A5判上製 並入・346頁・6912円

あわせてどうぞ

好評発売中 『サムエル記 下』 5,400円

WASA 神学は語る パウロの教会は どう理解されたか

リチャード S. アスコーク 村山盛草 訳



◆A5判 並製・178頁・2560円
教会が参考とした基礎モデル
に関する新約学者の議論を
整理・概観。社会における機
能という視点から教会を捉
え直すための入門書。

第4回
配本

ホームページ更新情報

「NTJ 新約聖書注解」監修者と現場の牧会者による
講演&シンポジウムの記録 **全文無料公開中!**

～ 新約聖書学と教会の歩みはいかに連帯できるか? ～

<http://bp-uccj.jp/tokusetsu/2015sympo.pdf>



〈尊びの愛〉としての

アガペー

遠藤 徹



● A5判・360頁・本体3,300円
「アガペー」というギリシア語の意味を明らかにし、独自の視点に立つて新約聖書を新しく読み直す。アガペーで一貫したイエス像に迫り、これからのキリスト者の在り方を探る意欲作。

好評既刊

G・アウトカ 茂泉昭男／佐々木勝彦／佐藤司郎訳

『アガペー——愛についての倫理学的研究』

● A5判・416頁・本体5,800円

C・リンドバーグ 佐々木勝彦／濱崎雅孝訳

『愛の思想史 コンバクト・ヒストリー』

● 四六判・304頁・本体1,800円

信仰と言葉に
真摯に仕えた巨人



近代日本の預言者

J・F・ハウズ

堤 稔子訳

● A5判・562頁・本体5,000円

内村鑑三、一八六一—一九三〇

近代日本の精神と社会的事象への関心を真理の探究に組み込み、明晰な言葉で表現し続けた稀有の天才、内村鑑三。門下生の証言と膨大な文献を元に、米国人研究者が生涯をかけて書き上げた包括的な論考。

【新装版】

朝の道しるべ 聖句断想366日

小島誠志



● A6判・400頁・本体1,500円
日ごとに新しく聖句に出会い、生きるための力を与えられる珠玉の言葉を収録。ハンデいで読みやすく、プレゼントにも最適！

好評既刊

小島誠志 文 森本二郎 写真 『夜も昼のように』



「人間にとつてどんな暗い日も、神にとつて暗くはない、神の光の届いている日なのです」
厳しい人生の谷間でも、差し込む神の光を指し示す、小島誠志の聖句断想と、自然写真家森本二郎の写真的美しい「ハーモニー」。

● 四六変型判・64頁・本体1,200円